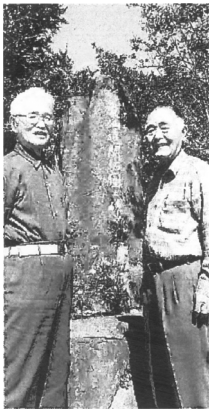


満蒙開拓団の証言上映

22日 益田の元入植者団体主催



記念碑の前で往時を振り返る松永さん（左）と加藤さん（益田市美術館で）

戦前の国策により中国東北部に入植し、終戦前後の混乱で多数の犠牲者を出した「満蒙開拓団」を取材した映画が22日、益田市の県芸術文化センター「グラントワ」小ホールで上映される。同市美都町から入植、現地で多くの仲間を亡くした「大頂子東仙道開拓団の証を守る会」が主催。「悲惨な過去を知り、平和の尊さを考えて」と呼びかけている。

「平和の尊さを考えて」

体験者の証言を集めた「平和の尊さを考えて」の形で1943年から、移動ドキュメンタリー作品「嗚呼、満蒙開拓団」(2008年、製作・自由工房)が、全国で上映会が開かれていたが、元開拓団員らによる主催はまれという。満蒙開拓団は、国内の入植者や口飽和解決などを目的に、1931年から旧満州・内蒙古地区に送られた移民。終戦までに約27万人が入植し、ソ連軍侵攻や、戦後の逃避行の中で8万人以上が犠牲になったとされる。大頂子東仙道開拓団は、当時の東仙道村から分村す

る形で1943年から、移動ドキュメンタリー作品「嗚呼、満蒙開拓団」(2008年、製作・自由工房)が、全国で上映会が開かれていたが、元開拓団員らによる主催はまれという。満蒙開拓団は、国内の入植者や口飽和解決などを目的に、1931年から旧満州・内蒙古地区に送られた移民。終戦までに約27万人が入植し、ソ連軍侵攻や、戦後の逃避行の中で8万人以上が犠牲になったとされる。大頂子東仙道開拓団は、当時の東仙道村から分村す

た悲劇を知る人は少ない。語り継ぐために映画は大きな方になる」と期待する。上映は午後2時半、7時から2回。チケットは500円で高校生以下無料。問い合わせは加藤さん(0856・527064)。

2010年10月17日付け 読売新聞朝刊島根県版



8月の益田市訪中墓参団。方正県政府前。前列中央が外事弁公室王偉新主任、その左が加藤重幸氏さん、右が松永正さん。後列中央が2月の松江上映会で奔走された加藤尚子さんだ。